

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 登山教室 (4/24 三倉岳) 報告
2. クライミングスクール (4/17 三倉岳) 報告
3. 十方山における遭難捜索 (2/8) 報告
4. ありんこチーム活動 (4/17 天応) 報告
5. 岳連短信 (寄贈御礼、5~6月の行事予定)

1. 登山教室報告

(指導部長 森本 覚)

第1回 4/24(日)

登山形態：日帰り山行

山域：三倉岳

人数：8名 (スタッフ含)

計画では岩渕山を予定していたのですが雨天の為、三倉岳に変更しました。午前中は炊事棟でロープワークの基本練習をして、雨が止んだ午後からはクライミングエリアのアプローチ道を利用して中の岳に登りました。 (森本)

【感想文】

『岩稜歩き訓練「三倉岳」を終えて』

(登山教室2年 カモト)

新年度の実技講習がスタートしました。登山教室に入校して3年目、「緊急事態宣言」や「まん防」による中断が何度もありましたが、教室スタッフのご尽力により2年生としてスタートする事ができました。ありがとうございます。

今年度は9月の遠征で剣岳が予定されており上期のカリキュラムには岩稜訓練が多めに組まれています。4月の机上講習でもロープワークがあり、実技の岩渕

山までにいくつかの結び方を練習してくるよう宿題も出ました。

実技の1週間前、そろそろ宿題をしようと紙屋町の地下にある用品店へ行くと、机上講習で指定された8mmのスタティック長さ20mは在庫無しで取り寄せとなりました。届いたのは実技の3日前とギリギリでしたが、結局開封したのは前日の土曜日。住んでいるマンションにロープを結ぶ柱が無いのでテーブルの脚や椅子を使い、教室資料とYouTubeも見て練習。一夜漬けで実技を迎えることになりました。

当日5時に起きると天候は本降りの雨。スタッフから岩渕山から三倉へ変更すると電話連絡がありました。天気予報が前日になつても雨と曇りがコロコロ変わる状況だったのと、できるだけ岩渕山へ行きたいのでギリギリの判断になったのです。岩渕山は初めてで楽しみにしていただけに残念でした。

気を取り直して車で三倉岳を目指しますが道中はずっと雨。マロンウォール駐車場に着いた時は小雨になつてましたが、それでもカッパを着てのスタートとなりました。

まずは炊事棟の中でロープワーク講習です。内容は以下の3つ。

- ・フィックスロープをフリクションノットでの通過
- ・ムンターヒッチによる懸垂下降
- ・エイトノットを作りハーネスとつなぎクライムとクライムダウン

講師陣のデモを見てから、受講生一人ずつ実技を実施。一夜漬けの結び方は何とか再現できましたが怪しさ満点。毎日練習しないといけないですね。

ロープワーク講習が終わり炊事棟を出るころには雨も止み、カッパ無しで歩けたのはラッキーでした。

登ったルートは、A コース B コースの分岐まで普通の登山道、分岐から先は地図に無い道を CL 先頭で進みます。途中に何個かの大きな岩が表れ CL から解説を受けましたが、よくこんな岩場を登れるなど感心するばかり。覚えているルートは、門前払い、猫パンチ、モアイ、名前は忘れましたが凄いオーバーハングのある岩などが印象的でした。

我々の岩稜歩き訓練として次の 3 つを実施しました（もっと適切な表現があると思いますが知ってる用語だけで説明しています）。

まず、グレータワーの下の辺りで下降器を使って懸垂下降の訓練。初めての経験でしたが、けっこう面白いという印象。これが岩場で高度感があったらビビルだろうと思われました。

次に中の岳稜線手前の岩登り。登った岩には金属のステップが付けてありましたが、そのステップに片足を置いて立ち上がるのに苦労しました。この日の体力の半分はこの岩で消費した気がします。その要因を素人なりに考えると、補助ロープで確保されてるけどステップを踏み外して落ちる恐怖で身体が固くなり、柔軟に動けないのが原因なのかなと思われました。

最後に中の岳山頂直下をトラバースする箇所で、フリクションノットでじっくり通過するパターンとダブルカラビナで素早く通過する 2 パターンの訓練を実施しました。これについてはカラビナやスリングの素早い出し入れがポイントと思いました。どうやつたらそれができるか、次回スタッフのやり方を研究したいと思います。

そんな訓練をしながら中の岳山頂に着いたのは 15 時を過ぎていました。最後まで晴れる事はありませんでしたが視界は十分。中の岳山頂から見える巨岩のスケール感や距離感に圧倒され、岩稜で冷や汗をかいただけに満足感も大きかったです。

事前に、三倉の場合は「簡単なフィールドアスレチック」とか「登攀用具一式 20kg を担いで登り下りする道なのでそんなに厳しくない」と説明を受けていましたが、自分にとっては十分歯ごたえのある訓練とな

りました。

スタッフの皆さま受講生の皆さまありがとうございました。引き続きよろしくお願ひいたします。

（写真提供 久保田 征治）





2. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 覚)

第1回 4/17(日)

山域：三倉岳 炊事棟

人数：20名 (スタッフ含)

源助崩れ正面壁下部4ルートと「しろくま」「石斛を蹴らないで」の6本をトップロープ。緩斜面でラッペルの指導の後、「猫の悲鳴」「ソフトクリーム」の上部からラッペルを行いました。 (指導部 塩田 徹)

【感想文】

『第1回クライミングスクール』

(受講生 結城 孝之)

初めてのクライミングスクール、初めての外岩、緊張しつつ当日を迎えました。

天気も良く絶好のクライミング日和。

駐車場に集合しスタッフからの説明を受け、いざ源助崩れへ。

源助崩れへ到着したころにはうっすらと汗をかき程よいアップ状態。

今日の課題はヒップクラック下部、モアイクラック下部、ねずみ小僧下部、ラッキーネーブル下部、しろくま、石斛を蹴らないでの6本。

まずはモアイクラックにトライ。

登り方も分からずがむしゃらに岩を掴んでは登るジムとは違い手も足も手探り状態。

何とか中間地点まで到着しその上へ登るのに手足を探すがなかなか見つからずスタッフに「降ります」コール、スタッフから帰ってきた言葉はなんと「もう少し行きましょうか?」「えっ!」もう腕がパンパンなんんですけど~

仕方なく手足をクラックに突っ込みまくると「おっ! 決まった! これは行ける!」

何とか終了地点へ、スタッフからOKをもらい降下、降りてみたら腕はパンパン、喉はカラカラ、でも楽しい。ねずみ小僧下部、ラッキーネーブル下部、しろくまと登っていくうちにだんだん楽しさが増してきました。

最後に石斛を蹴らないでは取り付きからレイバック、これはキツイ、雄たけびをあげながら何とか完登。

ジャミングが決まった時、クラックの中にホールドを見つけた時、足が決まった時、これは行ける! と感じた時の感覚はたまりませんでした。

また、ペアの方が何をしたいのか自分が何をして欲しいのか声に出して伝えることの大切さを知りました。

このスクールが終了するころ自分がどれだけ成長出来ているのか楽しみです。

スタッフの皆さん準備から指導までありがとうございました。

これからもよろしくお願いします。

最後に自宅に帰ってからのビールは最高でした(笑)

『2年目の初回を迎えて』

(受講生 吉部 恵理)

山に登るなら岩稜があるのでロープワークの基礎知識は必要。ということでロープワーク講習を受けているうちに、クライミングに足を踏み入れて1年半が経ちました。

昨年度に受講したスクールはコロナの影響を受け、飛び飛びで5回の受講となり、もう1年続きをしなければ! という思いと共に終えていました。

4/17、迎えたクライミングスクール2年目の初回。半年ぶりにお会いするスタッフ陣を初め久しぶりの面々、受講生も半数くらい入れ替わっていました。

「源助エリア正面」に到着すると、期待を裏切られることなく見上げる壁にどーんと4本のロープが下がり、左奥側に2本が用意されていました。初日の緊張感が漂う中、すぐに言い渡されたペアを組み、順番に

課題に取り組みました。私は登山教室で旧知のS本さんと組んでリラックスして臨めました。

張り切って1本目の「ねずみ小僧下部」。存分に岩の感覚を楽しみ、納得の行くところまで登りました。下を見て怖さを感じないように、落ち着いて呼吸し、周辺を見て手・足を探しながら。自己ベストの高度で終えました。2本目の「ラッキーネーブル下部」はもっと低いところで終えた記憶です。左奥の下に移り「しろくま」は下から見ていると出来そうですが…。順番が来ると岩がかぶっていて、辛い態勢で足がかり探している内に、張った手が耐えられずに断念。ここでもまだ力量不足を実感します。

昼食を挟んで「石斛を蹴らないで」へ。中盤、手掛かりがあるものの足が踏めなくて敗退。正面の戻りクラックに腕を突っ込んでみたり、色々試しながら「モアイクラック下部」。目標箇所くらいまで進みました。残りの1本、本日一番難しそうな「ヒップクラック下部」は時間切れでしたが充分満足です。

最後にラッペル（懸垂下降）を教わりました。説明を受け、立ち木で練習をした後に「猫のひめい」か「しろくま」のどちらかで実践でした。ロープに思い切って体重を預けながら、後方を見ながら壁を歩くような速度で降りました。途中で止まって、確保者にテンションをかけてもらい、クライマーがロープから手を放しても止まっていることを確認。

初日の実践でスタッフから細かい注意も頂き、たくさんの学びがありました。

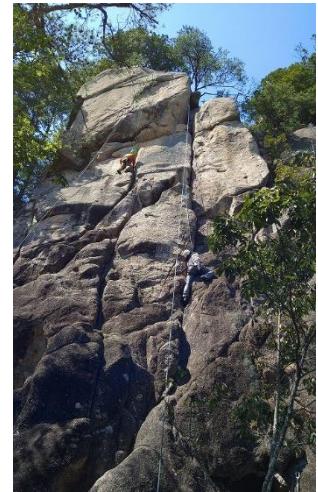
ビレイヤーはクライマーの動きを見ながらロープを出す速度を調整する。クライマーを下す時は、張ったロープで一度クライマーにテンションをかけてもらい効いていることを確認し、合図してから適度な速度で降ろす。ビレイヤーはクライマーが地上に着いたら、クライマーがロープを解きやすいように急いで4回くらいロープを繰り出す。クライマーは忘れずにビレイヤーに「ビレイ解除」のコールをする等々。

クライミングは見ている時間も楽しく、特に上手に登られている方や頑張っている方を見るのは刺激にも参考になります。素敵な女性クライマーの先輩方がいらっしゃるのも励みになります。

まずは目の前の課題を最後まで登ること、同時にビレイの上達を目標にしたいと思います。

今年もう一年クライミングにしっかり向き合って、基礎を身に着けたいと思います。

スタッフの皆様、受講生の皆様、今後ともよろしくお願ひいたします。



(写真提供 塩田)

3. 十方山における遭難捜索報告

(2月 11日 指導部 堀内 輝章)

捜索期日：令和4年2月8日

捜索参加者（現地）

山岳連盟：後藤裕司 岡谷良信 森本覚 堀内輝章

一般：E氏（友情捜索）S氏（友人、現地本部待機）

（広島での連絡・記録担当）

山岳連盟 新山まゆみ

捜索状況

2月 7日

17:30 岡谷氏より、「知人M氏夫妻が十方山から帰らない。」と、新山氏からの情報ありとの、連絡を受ける。

17:59 山田会長より恐羅漢の川本社長より捜索の要請があるとの連絡。

18:00 ひとまず、後藤、岡谷、堀内が今夜中に川本氏手配の恐羅漢ロッジに入ることとし、明日朝、森本が合流予定。新山に広島に残って時系列の記録をお願いする。

20:50 後藤、岡谷、堀内、後藤車にて戸河内発。

22:15 恐羅漢ロッジ着。川本氏と状況確認、明日の予定確認後、就寝。

M氏家族は呉で待機とのこと。

2月 8日

8:00 友人S氏、森本合流。山岳連盟は山県署の捜索隊メンバー6名と岳連4名で水越峠より尾根ルートの捜索をすることとする。

8:30 林道の一部を川本氏よりスノーモービルでの協力を得て時間短縮を図る。昨日、あるいは当日のものと思われるトレースあり。

廿日市署は瀬戸滝ルートの捜索。すでにM夫妻の車が登山口にあることは確認済み。

県警のヘリ含めて両方のルート近辺捜索。

10:20 男性発見と警察無線にて連絡あり。場所は瀬戸滝よりかなり西、細見方向とのこと。この時点で我々の捜索は頂上直下周辺。

発見時の状態は意識あり。委細不明。消防へリにてピックアップ完了。

10:30 奥様も瀬戸滝側と判断し、山県署と調整、早

急に引き返し、立岩ダム方面に移動することとする。現在はほぼ十方山頂上直下。山県署とは二軒小屋駐車場にて別れ、我々は戸河内より那須集落を経て、立岩の登山口に向かう。道路状況はかなり悪く、慎重に走行する。

13:16 登山口到着。廿日市署と合同捜索に入る（E氏と合流）。

調整後、入山経路を検討し、立野のキャンプ場に移動することとしたが、警察車両が凍結路で難渋し、移動時間に手間取る。

14:40 M氏のピックアップ位置の緯度、経度を確認し、細見谷林道より捜索再開。

15:40 奥さん発見、すでに消防ヘリにてピックアップ完了。

意識ありとの情報。その他不明。

15:47 発見、収容の連絡及び、意識ありの情報を受けて、捜索を終了とする。

20:10 岡谷氏より、娘さんからの連絡で、M氏夫妻の怪我の状況報告を受ける。

概要は下記の通り。

M氏：肋骨3本骨折。低体温症。広島大学病院入院。

奥様：低体温症。その他外傷なし。（但し新聞報道によると頭部打撲重症ともあります。）委細不明。

以上が時系列での捜索報告ですが、捜索中の情報が錯綜しており、時間、及び状況の報告を把握できていないものもあります。

いずれにしても、当事者が生命に関わる状況なく、救助できたことは結果的に最良であったと考えます。当日の発見に至らなく翌日までかかっていたら、危険な状況となっていたかもしれません。

いずれにしても、ヘリの威力は絶大でした。今後は県警、消防、地元消防団等との連携も視野に入れた、遭難対策、救助システムの構築が急がれます。

また、我々登山者も再度、自らの意識改革と装備や計画について改めて見つめ直すことが必要であると痛感しました。

なお、その他の参考資料は下記を参照ください。

以上

娘さんからの情報

2月 7 日

9:00 両親が職場に来ていない事が、職場からの情報で判明。

確認のために職場の職員さんが自宅訪問。車のない事を確認したことから、遭難事故の可能性が高いと職員さんが判断。

母の職場から緊急連絡先の次女に連絡があり、次女から長女と連絡を取り合い、母の職場に確認する。

長女が前日偶然にも「十方山か大山に登る」と聞いていたので、鳥取県警と廿日市観光協会に連絡し、調査していただく。

11:30 鳥取県警からこちらにはその様な情報はないとの報告。

長女在住の呉警察署に「失踪者届」を提出して、捜索開始。

捜索の結果、父の携帯の GPS が反応し十方山登山が判明、車も瀬戸滝登山口にある事も判明。

広島県警はヘリコプターで捜索開始。その後頂上付近にトレースがある事を確認し、翌、8 日 8:30 から、瀬戸滝側からと恐羅漢（二軒小家）側から捜索開始することとし、7 日の捜索は打ち切り。

この情報は、M氏夫妻の遭難事故情報を各方面から頂きましたが、心配のあまり錯綜した情報も考えられましたので、娘さんからの情報をまとめたものです。

（岡谷）

後日、M氏夫妻からの情報によると

装備：リュック、スノーシュー、アイゼン、ストック、ヘッドライト

服装：冬山用下着上下、フリース、アウターヤッケ、厚手靴下、ニット帽子、冬用手袋、冬用登山靴

行動の経緯

午前 8:00 頃から登り初めて 11:00 頃には山頂に着いた。

頂上の手前ぐらいから、よく雪が降り出した、5 分後に下山開始、結局登って来た踏み跡はなくなっていました。慣れた山ではあったが、いったんホワイトアウトになると行動不能になり、身の危険を感じるとともに、今いる場所が分からなくなってしまった。

スマートフォンは電池切れとなり、GPS 機能も失い、現在地の確認も出来なくなってしまった。

登り慣れた山だったために地図を持って来ていなかった事もあり、踏み出す一歩の方向を、右側に伸びる尾根に間違え、道迷いとなる。

夜まで行動していたが二人は急斜面で滑落してさまよう感じでした。甘く見ていたことが最大の原因です。

（21:00）頃 奥さん滑落、ヘッドライトを紛失する。M氏助けようとして同じ所に滑落する。しばらくは意識を失っていた、意識は戻るも幻覚が見える状態だったと思う。

6 日（日曜日）は、その場で、そのままの状態で、お互いに体育座りで声掛け合いながら一夜を過ごす。身体は、低体温症の前兆か、ずっと震えていた。

M氏の行動（幻覚の中で定かでない）

7 日：ヘッドライトの紛失で1台しかないので助けを呼ぼうとしたが、再度幻覚におそれ、同じ場所を行き来し、意識を失いそのまま2日目。

8 日：夜が明けても動けずその場にとどまる、その後ヘリコプターの音で意識が戻り、幻覚ではないかと思いながら「うそ？本当に来てくれた」一生懸命死にたくない、さまよっていた中の出来事です。懸命に手を振る（10:20）頃、奇跡的に救助して頂いた。

救助された際の問い合わせに「妻は小学校にいる」とか、服装についても間違った色の情報など、

幻覚の内容を伝えてしまい、ご迷惑を掛けてしましました。

奥さんの行動

7日：明るくなつて（7:00）頃 沢に沿つて歩いていたがそのうち、夕方になり、動けなくなる。（19:00）残していた食料を口にするも、飲み込めなくなる、その後1人で夜を明かす。

8日：朝、主人の後を追うつもりで歩きだすも、数歩しか歩く事は出来ず、その場でヘリコプターが再び来てくれる事を信じて、救助されるまで座っていた。

RCC（中国放送）での放送内容（補足）

当時十方山のある中国山地では、強い寒気が流れ込んだ影響で、雪雲がかかり続け、まとまった雪となっていました。

厳しい寒さの中で、奥様は低体温症で動けなくなつてしましました。19:00頃、旦那さんは、助けを呼びに行くために奥さんと離れたと言いますが「幻覚の為に定かではない」。目が覚めたらヘリコプターの中にいたとの事でした。

以下、M氏夫妻のコメント。

尾根で迷った時点で、それ以上行つたら死んでいたことは間違ひないです、皆さんのおかげで、生還できたことに感謝しかありません。

また、職場、捜索に携わつて頂きました各位様、岳友の方々に大変ご心配とご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げますと共に感謝致します。

ありがとうございました。

JR 呉線天応駅 9時集合・出発

天応駅-登山口-天応右尾根（アイゼン尾根）-（クライミング訓練）-鳥帽子岩山頂-上山-大屋大川下山-呉ポートピア駅

昨年 10 月に膝を痛め完治を待つてると年齢から山歩きを断念しなければならなくなり、膝の様子をうかがいながらだましまし歩いてる現状。

そんな時、岩稜歩きトレーニングがあり参加しました。

ヘルメット・簡易ハーネス・カラビナなど久しぶりにザックに入れ参加しました。

現地で簡易ハーネス装着しましたが自信が無く「これで合つてますか？」と見てもらいました。

アイゼン尾根は登山教室時代や山仲間と何度か歩いてて何とかロープ無しで歩けるルート。

今回は岡谷さんがロープを張ってくれ装備のチェックをし登りました。

ロープワークで注意を受けたり、足の置き方に指摘を受けたり…。

山頂でロープワークの講習がありました。

下山は上山を通り呉ポートピア駅のルート。

途中から登山道があやしくなり結局ルートが分からなくなりました。豪雨の影響で登山者が減ったことなどで廃路になりかけてる。

久しぶりの藪漕ぎを味わいながらなんとか大屋大川沿いの道路へと下山。

若い人達に混じりシックハックの登攀でしたが、昨年からもやもやしてた足への不安も問題無く降りることができ「コロナが落ち着いたら遠征するぞ！」と思ひながらの帰宅でした。大変有意義な例会でした。

お世話になりました。お疲れ様でした。



4. ありんこチーム活動報告

（顧問・個人会員 岡谷 良信）

『ありんこチーム山行報告』

（個人会員&ありんこチーム 今澤 勝美）

4/17（日）ありんこチーム4月例会が岩トレーニングとして天応山で行われたので参加しました。



5. 岳連短信

1. 寄贈御礼

4/20 三原山の会『筆影』No. 506 (5月号)

4/22 福山山岳会『会報』5月号

広島山稜会『峠通信』第755号 (5月)

広島山岳会『山嶺』第881号 (4月)

5/5 『中信高校山岳部かわらばん』708

2. 5~6月の行事予定

5/14 定時総会

5/21 国体広島県選手選考会 (Switch Climbing Gym)

5/21~22 スカイランシリハーサル

5/28~29 登山フェスティバル・第29回比婆山国際スカイラン

6/4~5 県高校総体 (広島学院・絵下山)

6/5 第20回ひろしま「山の日」県民の集い

6/18~19 山岳レスキュー(無積雪期)研修会 (比婆山)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽に寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しことがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。隨時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい



2022. 4. 16 比婆スカ看板掛け・コース整備にて